



三井広報委員会

# 三井ゴールデン匠賞

「伝統×イノベーション」の担い手に注目と称賛が集まる機会を創りたい

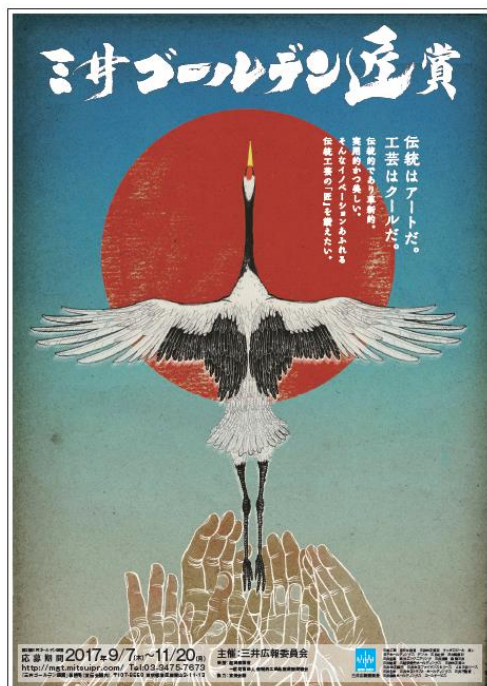
## 第2回「三井ゴールデン匠賞」

2017年9月7日より応募受付開始

三井グループ24社で構成する「三井広報委員会」は、第2回「三井ゴールデン匠賞」の応募受付を開始します。

本賞は、日本の伝統工芸の担い手に称賛が当たる機会を創るため、古来の技法や様式を継承しながら、革新的アイデアを積極的に取り入れ、発展させている方々を表彰するもので、日本の伝統工芸の有識者と、文化や業種を異にする世界で活躍する多様な方々の共感・協力をいただいております。

第1回「三井ゴールデン匠賞」では、29組のファイナリストが選出され、その中から5組の方々が受賞を果たしました。2020年に向かって日本文化への世界的関心がますます高まるなか、第2回三井ゴールデン匠賞におきましても、「伝統×イノベーション」をコンセプトに、より多くの匠に注目をいただき、伝統工芸の素晴らしさを世の中に広く伝える機会の創出に寄与して参ります。



### 【賞の概要】

- 目的：日本の伝統文化を継承しつつも、未来につながる「革新的な」アイデアを取り入れ、さらに発展させている伝統工芸の担い手に、注目と賞賛が集まる機会を創りたいという思いから、「三井ゴールデン匠賞」を創設しました。
- 主催：三井広報委員会
- 後援：経済産業省、一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会
- 特別協力：宣伝会議
- 賞の種類／賞金：
  - ・三井ゴールデン匠賞：各50万円
  - ・グループ：50万円<三井ゴールデン匠賞と合わせて計100万円>
  - ・モストポピュラー賞：20万円<三井ゴールデン匠賞と合わせて計70万円>
- 応募期間：2017年9月7日(木)～11月20日(月)
- 発表：2018年2月13日(火)
- 贈賞式：2018年3月20日(火) (会場：SMBCホール)



三井広報委員会

# 三井ゴールデン匠賞

## 【応募資格】

- ①伝統的工芸品の職務に従事している個人または団体。
  - ・職人、作家、デザイナー、プロデューサー、ディレクター、経営者
- ②伝統工芸に新しいアイデアを加味したオリジナリティあふれる取り組みを実現していること。
- ③実際にその取り組みを現在も進行させており、継続性が認められること。
- ④国際的な取り組みを行っている、または今後海外に進出・発展する可能性が高いこと。
- ⑤予備審査を通過した場合、期日内に事務局が指定する宛先（東京都港区内）に作品を送付できること。

## 【応募方法】

三井ゴールデン匠賞公式サイトより専用の応募用紙をダウンロードしていただき、必要事項を記入の上、作品の写真を添えて下記事務局宛てに郵送して下さい。

「三井ゴールデン匠賞」事務局（宣伝会議内）：〒107-8550 東京都港区南青山 3-11-13

三井ゴールデン匠賞公式サイト：<http://mgt.mitsuipr.com/>

※応募締切：2017年11月20日(月)消印有効

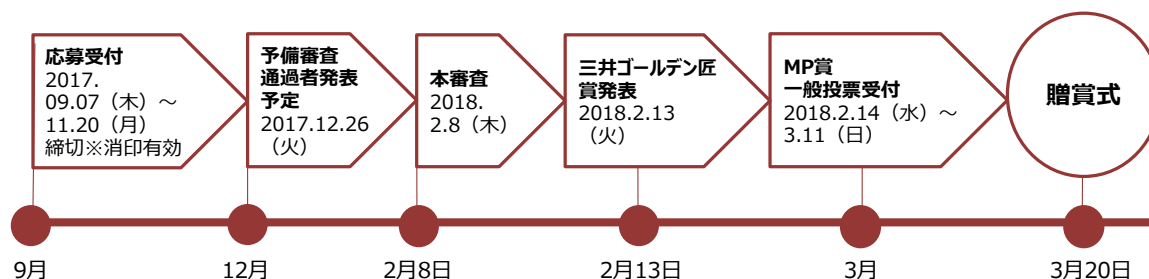
## 【審査基準】

革新性を基本に、技術・技能、独自性、有用性、持続性、国際性の5項目を審査基準とする。

審査項目においては持続性を最も重視する項目とする。

- <技術・技能> 卓越且つ革新的な技術・技能
- <独自性> 従来にはなかった新しい価値を生み出した革新的な取り組み
- <有用性> 伝統を活かしつつ更に有用な機能を付加した革新的な取り組み
- <持続性> 産業として持続性さらには市場拡大など未来につながる革新的な取り組み
- <国際性> 国際化の為にしている革新的な取組み、または、今後の意思

## 【スケジュール】





三井広報委員会

# 三井ゴールデン匠賞

## 【審査員】

大島 眞彦 (審査員長)	三井広報委員会 委員長 三井住友銀行 取締役兼専務執行役員
赤瀬 浩成	メイド・イン・ジャパン・プロジェクト 代表取締役
赤沼 多佳	公益財団法人 三井文庫 三井記念美術館 参事
遠藤 充	三越伊勢丹 呉服・美術統括部 美術商品部 部長
佐々木 千雅子	一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会 相談員
佐藤 達郎	多摩美術大学 教授 コミュニケーション・ラボ 代表
ゾエルゲル・ニコラ	老舗梅干専門店「ちん里う本店」 役員
田中 里沙	事業構想大学院大学 学長 宣伝会議取締役
能作 克治	能作 代表取締役
ボブ 田中	東北芸術工科大学デザイン工学部 教授 ボブ田中事務所 代表
水野 学	クリエイティブディレクター good design company 代表
矢島 里佳	和える 代表取締役
山田 遊	バイヤー 監修者

## 【第1回グランプリ受賞者のコメント】 株式会社能作 代表：能作克治



第1回「三井ゴールデン匠賞」グランプリを受賞させていただきました。製作した作品に賞をいただくことはあるのですが、色々な立場の方が受賞し、取り組む姿勢を評価いただいたことに驚きました。日本の工芸に広くスポットを当てた新たな賞であり、弊社にとっても大きな励みと自信になりました。世界にチャレンジして解ったことなのですが、日本の「ものづくり」は技術、精神を含め間違いなく世界一であり、そのことに自信を持つことが重要であると考えています。この賞においてグローバルな視点を持ち、堂々と世界にチャレンジする方々が増えることに期待したいと思います。

## 【三井広報委員会について】

三井広報委員会は、三井グループ企業 24 社で構成し、様々な文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献すると共に、社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指しています。

<主な活動>

「三井ゴールデン匠賞」の提供

「三井ゴールデン・クラブ賞（三井 GG 賞）」の提供

「三井ゴールデン・クラブ野球教室(三井 GG 野球教室)」の開催

三井広報委員会公式サイト: <http://www.mitsuipr.com/>



三井広報委員会

三機工業 新日本空調 三井住友建設 サッポロビール 東レ 王子ホールディングス デンカ 三井化学 日本製鋼所  
三井金属 東洋エンジニアリング 三井造船 商船三井 三井物産 三越伊勢丹ホールディングス 三井住友海上  
三井住友銀行 三井住友ファイナンス&リース J A 三井リース 三井生命 三井住友トラスト・ホールディングス 三井不動産  
三井倉庫ホールディングス エムサービス

## <報道関係者からお問い合わせ先>

「三井ゴールデン匠賞」広報事務局（株式会社アンティル）担当：久保田・金子・平井

TEL：03-6825-3020 FAX：03-6685-5266 Email：mgt@vectorinc.co.jp

## 添付資料

## 【第1回「三井ゴールデン匠賞」受賞者】

## 株式会社 岩鑄 (いわちゅう) モストポピュラー賞受賞 ※団体として受賞

代表：岩清水 晃 (いわしみず あきら) 南部鉄器／岩手県盛岡市

400年以上の歴史をもつ南部鉄器。黒光りする渋い鉄瓶が有名だが、南部鉄器の工房の一つである岩鑄は、木炭、ガス、IH調理器と熱源を選ばない鉄瓶やカラフルな色の急須を開発し、現在は欧州、北米、アジアなど海外においても実績をあげている。伝統的な技術、意匠を守りながらも、現在の生活様式に順応できるような技術革新を実現している点が評価された。



いわちゅう  
株式会社 岩鑄  
いわしみずあきら  
代表 岩清水 晃  
南部鉄器／岩手県盛岡市



〈代表作品〉  
急須 格子アラレ (左)、平底撫肩鉄瓶 1L (右)、  
オムレット 24cm (下)

## 杉原 吉直 (すぎはら よしなお)

所属：株式会社 杉原商店 越前和紙／福井県越前市

江戸時代から続く越前和紙の紙問屋杉原商店の代表でありながら、積極的な異業種との融合や新技術の開発、海外への販路拡大などの取り組みが評価された。例えば、手漉(す)き和紙の技法にデジタル技術を組み合わせることで、オリジナルのデザインを小ロットで作成することに成功した「DECO-WASHI (デコ和紙)」や越前和紙の軽さと越前漆器の丈夫さを融合させることで、日用品雑貨から空間装飾まで用途を広げること成功した「漆和紙 (うるわし)」などが代表例として挙げられる。



すぎはらよしなお  
杉原 吉直  
株式会社 杉原商店  
越前和紙／福井県越前市



〈代表作品〉  
漆和紙

## 立川 裕大 (たちかわ ゆうだい)

所属：株式会社 t.c.k.w 伝統技術ディレクター

漆や竹細工など、日本の伝統的手仕事と現代のデザインを結び付けながら、日本各地の伝統技術の活動領域を、最新のインテリアデザインの世界に拡張させることに貢献したプロジェクト「ubushina」などの取り組みが評価された。具体的には、建築家やインテリアデザイナーに日本各地の伝統工芸の魅力をアピールすることで、物件に合わせた特注品 (主に家具・照明・内装材・アート) の需要喚起を成功させたことが挙げられる。



たちかわゆうだい  
立川 裕大  
株式会社 t.c.k.w  
伝統技術ディレクター



〈代表作品〉  
テーブル／ubushina

## 株式会社 能作 (のうさく) グランプリ受賞 ※団体として受賞

代表：能作 克治 (のうさく かつじ) 高岡銅器／富山県高岡市

富山県高岡市に400年にわたり伝わる伝統的な鑄造技術を受け継ぎながら、様々な新しい試みを行っている。従来の流通に頼らない独自の展示会開催や、柔らかく扱いにくいとされてきた「錫 (すず)」を用い、使う人が自在に「曲げて使う器」を開発し高岡銅器のイメージを変えた。さらにこうして得たノウハウを、産業全体の発展を視野に同業者に公開、職人の減少と高齢化が進む中、雇用を増やし若年層への技術の継承に成果を上げるなど、流通、商品開発、地域貢献など多岐にわたる活動が評価された。



のうさく  
株式会社 能作  
のうさかつじ  
代表 能作 克治  
高岡銅器／富山県高岡市



〈代表作品〉  
KAGO スクエア L

## 福島 武山 (ふくしま ぶざん)

九谷焼／石川県能美市

九谷焼の伝統技法・赤絵細描の第一人者。一度目にする、より目を凝らして見入りとなる精緻な赤い線が特徴。その2mm幅に7本の線を描くという細かさだけでなく、線1本1本の正確さと伝統的な小紋を豊富に取り入れた意匠は他の追随を許さない。さらに、九谷焼技能向上研修を積極的に行い後継者育成に尽力する一方、仏エルメス社より時計文字盤の製作依頼を受けるなど、九谷焼における圧倒的な技術力を有しながら、国際的にも活躍の場を広げる取り組みと実績が評価された。



ふくしま ぶざん  
福島 武山  
九谷焼／石川県能美市



〈代表作品〉  
赤絵網手台皿